

# 振り返ってみよう！ 真駒内

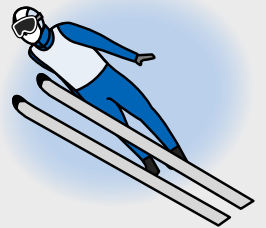
世間では「ソチオリンピック・パラリンピック」や「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の話題で盛り上がっていますが、南区で「オリンピック」といえば1972年（昭和47年）の「札幌オリンピック」です！

真駒内は、札幌オリンピックを一つのきっかけとして発展したまちで、現在もオリンピックにゆかりのある場所がたくさん残っています。当時を知る人も知らない人も、「札幌オリンピック」をキーワードに、「真駒内の歴史」を振り返ってみましょう。

## 「札幌オリンピック」メモ

1972年（昭和47年）2月3日～13日（11日間）

- 35の国や地域が参加。
- スキージャンプ（70メートル級）の表彰台を日本人選手が独占。
- 女子フィギュアスケートで銅メダルに輝いたジャネット・リン（アメリカ）は、後に「札幌の恋人」と呼ばれ、大人気に。



## 選手村



現 五輪団地

選手村には参加選手のほか、役員も含めた1,670人ほどが入村しました。オリンピック終了後は、男子宿舎（写真右側）は賃貸住宅として、女子宿舎（写真左側）は分譲住宅として利用されています。

ジャネット・リンは、この宿舎の自室の壁に「Peace + Love」というメッセージとサインを書き残しています。

## ジャネット・リンのサイン



▲この部屋に住む内藤義孝さんと、アクリル板で保護されたジャネット・リンのサイン。

リンさんは転んでしまったのに、とってもかわいらしい笑顔とともに立ち上がりました。その姿が今でも忘れられません。

その時は、まさか彼女のサインがある部屋に住むことになるとは、思ってもみませんでした。

※オリンピックの期間中に書かれたサインは、残念ながら消えてしまいました。写真のサインは1973年に再来日した時に書いたものです。

## プレスセンター



現 北海道青少年会館コンパス

プレスセンターは報道業務の中心施設で、報道本部や国際通信社の臨時支局のほか、銀行や税関、郵便局などが設置されました。ここから全世界に、札幌オリンピックの様子が発信されました。